



# 全国連合退職校長会

# 会報



年頭所感

## 「コロナ禍の中での教育課題」

会長 入子 祐三

令和三年の  
新春をお迎えのこと  
お祝い申し上げます

新型コロナウイルス感染症が  
猛威をふるった令和二年。会員  
の皆様には、コロナ感染症と熱  
中症の予防に留意しながらお過  
ごしになられたことと存じます。  
日頃より本会の事業推進にご協  
力ご支援を賜りまして誠にあり  
がとうございます。コロナウイ  
ルスは、日本の社会経済、人々  
の暮らしに災禍をもたらしまし  
た。全連退にとっても予定した  
事業を自粛中止とするなど、苦  
渋の選択をする厳しい年になり  
ました。

連退の事業活動・運営について  
考えなければなりません。コロ  
ナ禍における当面する課題は山  
積しているように思います。本  
部としては、各都道府県からの  
要望事項をとりまとめ文部科学  
省をはじめ関係省庁へ働きかけ  
を行います。各都道府県退職校  
長会には、当面する課題の解決  
のために、各自自治体及び教育委  
員会への働きかけを可能な限り  
して頂き、また学校現場や現職  
との連絡をとり、支援協力を進  
めて頂けたらと思います。

### ◎ 当面する課題

- ① 新型コロナウイルス感染症  
対応を踏まえ、子供たちの学び  
を保障するとともに、個別学習  
を保障出来るように、ICTの  
端末を整備する。
- ② そのため、学級編成の基準  
や指導体制の計画的整備が必要  
である。再三にわたって求めて  
きた学級編成の標準の引き下げ  
を含め、少人数による指導体制  
の実現をはかる。
- ③ 令和二年度に引き続き、新  
型コロナウイルス感染症対策と  
して、三密を避けるための環境  
づくりや習熟度に応じた学習の  
実施等、学びの保障をサポート  
するために必要な人材配置を支  
援する。
- ④ 新型コロナウイルス感染症  
対策の消毒作業等、教師をサポ  
ートし、教師が児童生徒への指  
導や教材研究などに注力できる  
体制を整備する。
- ⑤ 中学校における部活動指導  
員の配置、適切な練習時間や休  
養日の設定など部活動の適正化  
を進める。
- ⑥ 教師と多様な人材の連携に  
より、学校教育活動の充実と働  
き方改革を実現する。

コロナ禍のなかの教育には、  
多くの困難が予測されます。全  
連退の協力支援が求められ、期  
待されていると思います。皆様  
方のご理解ご協力をお願い申し  
上げる次第です。



## 「教科担任制」への期待

副会長（九州地区） 濱砂 和雄

令和2年度九州地区退職校長会協議会・宮崎大会は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止となった。また、東京を会場とする理事会・副会長会も開催されず、大変な年であった。

学校教育現場では、小学校は令和2年度から新学習指導要領の全面实施を迎えたわけだが、新型コロナウイルス禍によって多大な影響を受け続けている。子どもの命を預かる学校では、感染症の予防の徹底をはかりつつ、働き方改革やICT教育の推進等、様々な教育課題に対応していると聞く。

現場で働く者の心情に思いを馳せるとき、退職校長会として何かできることはないかと歯痒い思いをしている。

さて、新聞等によれば中央教

育審議会初等中等教育分科会は、令和元年度から進めてきた小学校教科担任制度の在り方について中間まとめを公表した。

教科担任制度については、教育内容の専門性を踏まえ、令和4年度を目途に小学校高学年から教科担任制を本格的に導入すべきと提言している。

さらに、特別部会では、小中それぞれの教職課程で一部科目を共通で履修できる特例を設けるべきだとし、今後の制度設計を論ずるため有識者会議を設定したことも報告された。

来たるべきソサイエティ5.0の時代においても、知識・技能・思考力・判断力・表現力を高め、主体的に学びに向かう子どもたちの姿は求められ続けるだろう。教科担任制度を取り入れることで小学校高学年段階の子どもたちが好奇心や探求力をこれまで以上に育んでいくことは想像に難くない。

学校教育現場により多くの人材を投入し活発な学習活動が展開されることを強く願う。

## 「つながるよさ」

を感じて

副会長（北海道地区） 黒坂由紀子

令和2年度は、コロナ禍の中で各行事は中止を余儀なくされている。言うまでもなく、退職校長会のよさは、現職時の教育に悩みながらも全力で取り組んできた価値観を共有できる仲間としてのつながりにある。もちろん直接顔を合わせて相手の表情や声の調子・息づかいなどを感じながら会話できることが、心を豊かにしてくれる。しかし、コロナ禍の中では、難しい現状にある。従って今できる方法を工夫しながら、取組を進めていかなければならない。

その一つとして、「広報活動」の充実が考えられる。先日、本会の取組の一つである「札幌10支部連絡会」が、感染防止対策をしながら開催された。各区での広報活動のアンケートを集約した結果が報告された。できる

だけ多くの会員のようすを掲載し、親しみのある読みやすい紙面作りを工夫し、原稿集めに苦勞しながらも、会のよさを感じ所属感を高める努力をしているようすが紹介された。コロナ禍のため、意見交流はできなかったが、紙面によるつながりの大切さを改めて感じる事ができた。また、この紙面を通しては、会員の趣味や研究のようすから、学ぶ機会を得られるよさもある。自分の知らなかった世界に触れられる楽しみや同様の取組をしている仲間との共有感も生き方の幅を広げられるよさと感じることができ。直接交流できる時期がきたら、共に学び合う楽しさも大切にしていきたい。

二つ目は、教育支援活動を通してのつながりである。教育に関わりながら現場・会員同士をつなぐりを深めて、活動意義を共有していくことができる。仲間とつながり、人生に潤いと生きがいを感じる会のよさを地道につなげていきたい。

## 全国校園長会長より



## 困難に打ち克つ

全日本中学校長会

会長 三田村 裕

あけましておめでとうござい  
ます。日頃より全日中へのご支  
援を賜り、深く感謝いたしてお  
ります。本年も皆様にとつてよ  
き一年となりますことを心より  
祈念申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス  
感染症への対応に追われた年で  
した。

感染拡大防止のために行われ  
た臨時休業措置により長期にわ  
たつて通常の学校教育が全国で  
停止するという前例のない事態  
ながら教育活動を行う日々に、  
誰もが迷い、考え、行動してき  
ました。正直、ため息の漏れる  
こともありました。

しかしそうでありながら、全  
ての中学校で日々教育活動が行  
われています。そして、再び臨  
時休業措置が取られることがな  
ければ、どの学校でも今年度の  
教育課程をほぼ終えられる見通  
しが立っています。これは全国  
の教職員一人一人の使命感や努  
力の賜物であり、教職員に道を  
示し家庭や地域に丁寧な説明を  
行うなど学校経営に邁進してき  
た約九千の校長一人一人の粉骨  
碎身の努力の成果です。

さて、令和三年はどのような  
年になるでしょう。新型コロナ  
ウイルス感染症は、依然収束の  
方向が見えません。しかし、新  
学習指導要領の全面实施、延期  
された東京オリンピック・パラ  
リンピックの開催が目前に迫っ  
ています。ため息をついている  
場合ではありません。

未来に向け、全日中も改めて  
果たすべき私たちの役割の大き  
さを自覚し、努力してまいりた  
いと存じます。全国連合退職校  
長会の皆様におかれましては、  
本年もどうぞよろしくご指導い  
ただきますようお願いいたしま  
す。



## コロナ禍における高校教育

全国高等学校長協会

会長 萩原 聡

新型コロナウイルス感染症が  
全世界で流行し、我が国では四  
月に緊急事態宣言が出され、学  
校は三月には臨時休業となりま  
した。東京などは五月末まで解  
除されず、その後も時差通学な  
どを行っています。三密の回避、  
マスクの着用、手洗いの励行、  
体温測定・体調チェック、校内  
や教具の消毒作業など、学校現  
場はこれまで経験したことな  
い感染拡大防止対策に奔走して  
います。

高校でも、臨時休業期間中も  
学びを止めないために、ICT  
を活用したオンライン学習が注  
目されました。しかし、家庭で  
のパソコンの有無のほか、ネッ  
ト環境も地域・学校・家庭で大

きく異なり、国はGIGAスク  
ール構想を前倒しし、教育格差  
の解消に取り組んでいます。ま  
だ暫く時間がかかりそうです。

進路活動においても、コロナ  
禍で、調査書に部活動の大会記  
録や資格試験結果を記載できず、  
オンライン面接など新たな対応  
も始まりました。就職解禁日が  
一ヶ月遅くなりましたが、求人  
件数は減少し希望職種がないな  
ど苦慮しています。大学入試は  
今年度から志願者の能力・意欲  
・適性等を多面的・総合的に評  
価・判定する制度になり、セン  
ター試験に代わる共通テストは  
学習の遅れを考慮し、第二日程  
が設けられましたが、その後の  
入試日程に変更がないため希望  
者は僅かで、志望校も安全志向  
や地元大学への進学など、例年  
と異なる傾向がみられます。

コロナ禍における学校の「新  
しい日常」が徐々に定着しつつ  
ありますが、更なる高校教育の  
進展のため、本年も全連退の皆  
様方の一層のご理解、ご支援を、  
よろしくお願いいたします。





## 「令和の日本型学校教育」 における特別支援教育

全国特別支援学校長会

会長 市川 裕二

全国連合退職校長会会員の皆様におかれましては、学校経営の責任者として、教育の充実・発展のために多大な貢献をされたとともに、現在においても、なお教育の充実のため御尽力いただいていることに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、現在、中央教育審議会において、これからの日本の教育の進むべき道について検討を進め、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中間まとめ）「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を

まとめました。この報告では、

「新時代の特別支援教育の在り方について」も整理されています。その内容は、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を着実に促進することを目指すというものです。

これからは一層、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校とも、障害のある子供の学びの場の整備・連携強化を進めるとともに、全ての学校における特別支援教育を担う教員の専門性の向上や関係機関との連携強化による切れ目のない支援の充実を図っていかねばなりません。特別支援教育は全ての学校において実施されます。「令和の日本型学校教育」における特別支援教育の推進に向け、ぜひとも退職校長会の皆様のお力添えをお願いいたします。



先生って

いい仕事なんだ

山形県退職校長会

会長 佐藤 利廣

新型コロナウイルス禍の中で、公共施設の閉鎖休業と集会抑制があり、諸会議のための会場確保が困難となった。常設の事務局を持つていないため評議員会等を中止にした。

会則には今回のような非常事態に対する運営規定がなかったもので、「書面表決」によって各支部の意見を集約した。

「おらほの自慢」

平成24年度からの教育研修会のテーマである。山形県教育の基盤は、歴史的背景によるものが大きい。潜在化している教訓や教育活動等を顕在化させ、誇りと自信を蘇らせるという趣旨で開催している。

県内各支部を持ち回りで実施

しているが、今年度は、止む無く中止せざるを得なかった。

「教師の喜びと生きがい」

伝えていこう

「先生っていい仕事なんだ」令和元年度からの活動の重点である。青年達が教師を目指し、「教職」を魅力ある職業として選べる環境を先輩教師がつくり上げていくという趣旨である。

①学校に直接関わって支援する。②家族や友人と教師の仕事の喜びを語り合う。③地域で、役職を通して教職について働きかける等の場面を想定している。教職の良さを内外両面から語る事ができるのは、校長経験者であり、また、退職後は地域で有為な人材として活躍している方が多い。豊富な経験と人脈を活かして、教職の負のイメージを語るのではなく教育の在り方を語りかけ、教職の魅力等を発信していくことは、学校支援につながるものと考ええる。

世論の喚起を積極的に進め、教師育成の下支えとなり、教員志願者の増加につながる一助になることを期待している。

## コロナ禍を乗り越えて

佐賀県退職校長会

会長 井上 和洋

本会は、本年度で創立五十五年の節目を迎えています。会員は、県内の小・中学校、県立学校の校長退職者をもって組織し、加えて現職校長も賛助会員として加入しています。

本年度前半は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第55回定期総会の中止など運営に苦慮しましたが、本部・支部とも厳しい状況の中、活動に取り組んでおります。

まず、教育支援活動として、7月に現職校長会との教育懇談会を開催し、小学校・中学校・県立学校の学校現場から事例発表（学校における新型コロナウイルス感染予防対策と課題、高等学校教育の現状と課題）があり、事例ごとの研究協議・意見交換を行い、学校支援の在り方について共通理解を深めました。8月には、県教育委員会・県

市町教育長会連合会との教育懇談会を開催し、喫緊の教育課題

（新学習指導要領の実施状況、

新型コロナウイルス感染予防対策と学校教育の充実策）や学校現場からの要望等について協議をしました。1月には、PTA連合会や退職公務員連盟との教育懇談会を予定しています。

会員の福利厚生活動では、10月に第23回県グラウンドゴルフ大会を実施し、100名を超える参加者があり、秋空晴天の下で元気澁刺とした競技が行われ、会員相互の親睦を深めました。2月には、第35回囲碁大会を開催します。

組織強化活動としては、本年度も11月から新会員加入のため本年度末退職予定の校長全員の学校訪問を実施しています。本会の活動の説明や退職後の生活の助言を行い、加入100%を目指し取り組んでいます。

今後とも、コロナ禍を乗り越え、モットーである「学校教育の応援団」として、佐賀県教育の振興に寄与してまいります。

## 峠の彼方にみえるもの

福岡市退職小学校長会

会長 池邊 孝次

本会は、会創立五十周年を迎えた年に、県から分離独立し、3年目を迎えます。

最近、学校は若年教師が多く、指導に当たる中堅教員が不足し、人材育成が大きな課題となっております。

本市では、毎年11月に「学校公開週間と全市一斉土曜授業」を設定しています。市立の全ての小、中、高、特別支援学校で1週間に亘り、全日、市民や保護者に学習指導のみならず、学校生活全般が公開されます。

支援事業の一つとして、この時期に会員が居住地の学校を中心に参観し、若年教師を励ますと共に、管理職との情報交換を行い、連携を深めています。昨年度は、予想を上回る約4割の会員が参観しました。参加の熱意は、分離独立したことを契機

として自立性が高まった所以であり、会の魅力をも高めています。又、この事業は、全連退が提唱する「教育の日制定運動」に位置付けています。

校長会や会員から、継続的な取り組みが要請されていますが、今年度は残念ながら、コロナ禍のため中止しています。

組織は、「人、事、金」からなるといわれます。県からの分離独立を経て、独自の取り組みに全力を注ぐ体制ができました。予算の面では、年会費が他の政令市より高負担でしたが、解決しています。

今後は、ウィズコロナの時代になります。「温故創新」のもと、新しい時代を創造する夢に向かって進みます。

達人 曰く

峠を「越えなばと

思いし峰に

きてみれば

なお行く先は

山路なりけり」

## 文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）

## 矢野和彦氏の教育行政の説明と懇談会

## 一日時

令和2年8月26日（水）午後  
1時30分～3時

## 二会場

文部科学省内 会議室

## 三 出席者

◎大臣官房審議官 矢野和彦氏  
○全連退入子祐三会長、各部長・委員長、全国退職女性校長  
会会長福田勅子他3名、全国  
教育女性連盟会長白鳥恵子他  
2名

## 四 教育行政の説明と懇談会

司会

全連退総務部長 田中昭光

## 1 矢野審議官の教育行政の説明

## 新型コロナウイルスへの対策

新型コロナウイルス感染症  
対策に伴う児童生徒の「学び



の保障」を総合パッケージで示しています。3月からの一斉休校に伴い授業日数がかなり限定的になりました。6月以降本格的にそれを取り戻すということ、まず、授業を共同学習など学校でしかできない学習活動について、重点化することです。限られた授業時数の中で効果的に授業を行う。これで、45日程度の不足分は補えるという前

提で、総合パッケージは考えられています。最終学年以外については指導事項の一部を次年度以降に移す特例的対応を可能にするということで、文部科学大臣告知が既に出ており、学習指導要領の特例を定めています。

令和2年度予算では、教員定数の改善は1726人だったのですが、補正予算で3100人を教員加配として計上しました。また、学習指導員は6万1200人で、学校によつては2～3名の配置ができる予算建てになっています。スクールサポートスタッフ2万6000人は、まだ配置されていない学校に1校に1人配置できる予算です。それぞれ補助率は3分の1なのですが、地方創生特例交付金が裏負担にあてられます。これで、学習指導員とスクールサポートスタッフについては地方の負

担はゼロという制度になっています。また、感染症対策や学習保障のための迅速かつ柔軟に活用できる経費を1校当たり100万～500万円支援します。これは、マスク、消毒液、体温感知器などを買い求める経費です。

授業日数のイメージとしては、共同学習などに重点化します。個人でも実施可能な学習活動の一部を補習も含めて授業以外の場において実施します。そうしたことで20日分ぐらいは充当できます。授業時数の確保のために夏休みを短縮し、土曜日の午前中授業によつて35日分程度補っています。学校が課した家庭学習を授業と同様に評価することで、合計45日程度充当できるでしょう。

6月から分散登校で順次学校が再開しました。夏季休業日の一部短縮し、授業を実施

します。例えば夏季休業は8月23日までとし、8月24日に始業。2学期からさらに週2回、1コマの追加的な補充授業を行います。運動会については、準備時間を短縮して、密集する運動や組み合ったり接触したりする運動を別の運動に代替し、来場者は極力減らします。修学旅行についても、移動時間の配慮や活動内容の見直しなど、行く場所そのものを配慮します。極力、子供たちの思い出作り、体験を重視する方針は変わらないのです。

8月6日、「小学校、中学校及び高等学校にかかる感染事例等を踏まえて今後求められる対策等について」という通知を出しました。これは6月から本格的に学校が再開されて以後2か月の感染状況を分析したものです。感染経路については、家庭内感染が57

%、特に小学生では70%です。また、教職員の感染経路は不明が69%、学校内感染と報告されたものはその時点ではありませんでした。特に小学生から小学生に感染するという事例はほとんど見られません。ところが、高校生から高校生の事例はかなり出てきています。まだそのメカニズムがよく分からないのですが、子供から子供というのは感染する能力も感染させる能力も少ないとみられています。

新型コロナウイルス感染症の国内発生動向のグラフから、10歳未満及び10代の陽性者は、20代・30代に比べると圧倒的に少ないのです。10分の1ぐらいのレベルです。しかも重傷者はゼロです。50代から少し危険が増し、60代の死亡率が41%、70代が125%、80代が254%と高齢者にとってコロナウイルスは非常に危険だと言

えます。

学校内で感染を広げないための対策としての臨時休業の在り方を示しました。濃厚接触者が特定される間の2日、3日だけにすることを指導しています。

学校内の消毒作業の進め方については、ドアノブとか電気のスイッチ、手すりとか子供たちが頻繁に触るところは効果がありますが、机の上や床を消毒することはほとんど意味がないということが分かっています。ウイルスは人間の体から出ている程度時間がたつと死滅します。危険なのは、空間に漂っている飛沫を吸い込むことです。密にならない、風通しを良くすることが大事です。

8月25日に出された文部科学大臣からのメッセージがあります。「児童生徒等や学生の皆さんへ」では、新型コロナ

ナウイルスにはだれでも感染する可能性があるということを描いています。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができしてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることを恐れて具合が悪くなっても言い出しにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人達が早く治るように励まし、治って戻ってきたときは温かく迎えてほしいということです。

「教職員をはじめ学校関係者の皆様へ」では、児童生徒への指導にあたっては、正確な情報や科学的根拠に基づいた行動を行うことができます。また、感染者、濃厚接触者等とその家族に対する誤解や偏



見に基づく差別を行わないよう指導することを求めています。

「保護者や地域の皆様へ」では、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さない。あるいは、差別につながる発言や行動があった時には「そんなことはやめよう」と声を上げてほしいとしています。

#### GIGAスクール構想について

GIGAスクール構想は、義務教育を受ける児童生徒のため1人1台の学習用PCと高速ネットワーク環境などを整備する計画の事です。その目的は子供たち一人一人の個性に合わせた教育の実現です。さらに、教職員の業務を支援する「統合系校務支援システム」の導入で、教員の働き方改革につなげるねらいもあります。昨年、1人1台端末・高速通信環境ということをも文科省は打ち出しました。それ

までは、3人に1台程度ということを目指していました。

3人に1台と1人に1台には決定的な違いがあると考えています。一斉学習で3人に1台の環境があれば、教師が電子黒板等を用いて説明し、子供たちの興味・関心、意欲を高めることができます。しかし、1人1台になると、一人一人の反応も、一人一人がどういうことを考え、答え、学習意欲はどうかなどが瞬時にわかるようになります。今まで学級ではあまり発言しなかった生徒が、それまで見られなかったようないい意見を出したりします。

個別学習にしても、今までであれば全員が同時に同じ内容を学習するところを、各人が同時に別々の内容を学習できます。また、各自の学習履歴が自動的に記録されます。

共同学習も、一人一人が記

事や動画等を集めて独自の編集ができ、各自の考えを即時に共有し、共同編集ができます。共同で話し合いながら組み立てていくこともできます。今まで紙で貼っていたことがプロジェクトに一瞬で皆の意見として出てきます。

1人1台端末・高速通信環境を活かした学びの変容イメージについてお話しします。まず、ステップ1で、「すぐにでも」「どの教科でも」

「誰でも」活かせるということ。ここで、検索サイトを活用した調べ学習、インターネット検索などは誰でもできるでしょう。あるいは文章作成ソフト、プレゼンソフトの利用で、今まで紙と鉛筆でまとめたものを、子供たち一人一人が自分の考えをまとめて、それを共同編集によりリアルタイムで考えを共有しながら学び合うことができます。

ステップ2で、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫るということです。例えば社会科で国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして深く分析する。時代ごとの地図をパソコンの中で重ね合わせて、その地域の変遷について分析する。今までの紙ではできないことがパソコンではできます。

ステップ3で、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かすということです。ICTを含むさまざまなツールを駆使して、各教科等での学びをつなぎ探究する教科横断型の学びに生かしていくということです。

なぜ今コンピュータなのでしょう。PISA調査は、2000年からOECDで行っている学力調査です。この調査は、現代を生きるための



学力、知識、技能の調査です。日常生活に近い極めて実践的な学力を問うものです。そして、2015年からコンピュータ使用型に移行しています。しかし、日本ではほとんど行われていないのです。2015年の時は、今までの試験をそのままコンピュータに置き換えたというものであったのですが、2018年から問題の中身もコンピュータ仕様になりました。つまり、それまでは新聞とか本とか誰が書いたのかはつきりわかるような文章から出題されていたのです。ところが、2018年から投稿文、電子メールなどを使用したのです。今回有名になったのが電子レンジの宣伝サイトです。内容が本当か、いたいどここのだれが書いたのか、信ぴょう性も含めて考えなければならぬ文章が出題されたのです。子供たちが日ごろ

からこういう情報に接してその情報をどう取捨選択していくかに力点が置かれている問題です。このような傾向に今なってきたいます。そして、日本の生徒の読解力は2015年の8位から2018年には15位になったのです。

PISA2018年のICT活用調査によると、学校での使用頻度は参加国の中で日本は残念ながら最下位です。私は日本の学校教育は世界一だと自負していますが、この部分では切り替えが遅れてしまったということです。学校外での平日のデジタル機器の利用状況の調査では、コンピュータを使って宿題をする生徒は30%（OECD平均は22%）、学校の勉強のために、インターネット上のサイトを見る生徒は60%（同平均は30%）です。これも衝撃的な数字です。日本の子供たちはI

CTに弱いかというと、ネット上でチャットをする生徒は87.4%（同平均は67.3%）、1人用のゲームで遊ぶ生徒は47%（同平均は26.7%）という結果が出ています。このように子供の遊びが先行して、学校内外での教育にICTの普及が遅れています。これは国の責任でもあり、日本全体で取り戻さなければいけません。昨年、1人1台を国が全面实施すると決断したのは、こういう背景があったからです。

GIGAスクール構想の実現のために、令和2年度第1次補正予算でICT環境整備のために国費4610億円を投じるという、思い切った施策を講じることになりました。今までのOECD最下位からトップをうかがうことをここ数年で成し遂げたいと考えています。次の時代を迎えるために意を決してこういう予算

を確保しました。

今までもICTをもっと学校に広めようという試みが何度かありましたが、あまりうまくいきませんでした。それは、今まではどうしてもハードに偏っていた側面がありました。今回は、ハードとソフトと指導体制ということで、何で教えるのか、何を教えるのか、どうやって教えていくのか（先生方の指導能力を高めていく）、この3本柱で行こうということです。

### デジタル教科書

学習者用デジタル教科書について、デジタル教科書の制度ができ、かなりの会社が発行していますが、ほとんど使われていません。デジタル教科書の図表の拡大縮小、書き込み、保存、検索等、あるいは動画・アニメーション、ネットワーク、参考資料、音声読

み上げ、こういったものをど

んどん付加していくことによ  
って使いやすいものにしてい  
きたいと思います。できれば  
令和6年度に本格導入したい  
ので本年度中にその考えをま  
とめたいと思っています。当  
然、デジタル教科書について

は無償の方向で考えます。紙  
の教科書もいきなりなくすわ  
けにはいけないのではという  
のが我々の感触です。紙もデ  
ジタルも無償となることは難  
しいので、紙の教科書は3年  
に1回更新ということで貸与  
にする（外国では貸与のここ  
ろが多い）などを考えなけれ  
ばなりません。

## 2 質疑応答

○福田勅子（全国退職女性校長  
会会長） 女性管理職の登用を  
促進するよう、教育委員会等  
に一層働きかけていただきたい。

○橋本誠司（教育課題委員長）

教科書の無償はそのまま続けて  
いただきたい。デジタル教科書  
は子供たちがフルに活用できる  
ようなキットができるようになって  
くるのかと、お話を聞いて  
いて感じました。

◎矢野和彦審議官 教科書無償

と教科書検定がリンクしていま  
す。ポイントを経費と教科書検  
定がどこまでできるかにかっ  
ています。われわれとしては、  
できるだけ教材も含めて無償化  
できたらいいと思っではいるの  
ですが、その辺はまだ見通しが  
つきません。紙の教科書はすぐ  
にはなくならないのではないか、  
なくせないのではないかと思  
います。

○藤崎武利（事業委員長） 最

近教員採用試験の志願者が減少  
してきています。学校を魅力あ  
る職場にしなければなりません。  
是非お力添えいただきたい。

## 3 会長挨拶

○入子裕三会長 矢野審議官に

は、熱心にご指導いただきまし  
て、誠にありがとうございます  
。今後ともご指導いただきま  
すようよろしくお願いいたしま  
す。

GIGA=Global and Innovation  
Gateway for All



懇談会出席者一同

## 感謝状並びに記念品贈呈者

### (1) 退任副会長

川合 俊平様（東海北陸）  
國友 道一様（中国）  
藤田 繁治様（四国）  
山田 稔様（九州）

### (2) 退任理事

佐藤 俊彦様（秋田）  
西城 正俊様（千葉）  
高澤 忠雄様（石川）  
西 輝昭様（福井）  
安藤 征治様（岐阜）  
安田 雅則様（静岡）  
大久保慎一様（愛知）  
中川 克己様（奈良）  
山田 忠男様（島根）  
松本 勝次様（徳島）  
溝渕 正臣様（香川）  
安川 博様（福岡県小）  
石塚 勝郎様（鹿児島）

※本来は定期総会の時に贈呈い  
たしますが、今年度は総会が  
中止になりましたので、10月  
9日付で発送いたしました。

## 地方の会報紙より

## 少しだけ無理して生きる

男鹿市 栗森 貢

(秋田県退職校長会「会報」第95号)

令和二年二月二十七日夜、安倍首相の「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う全国の中小高校等の春休みまでの臨時休業要請」は学校現場に大きな衝撃を与えた。じっくり考えたり連絡調整をしたりする余裕のないまま三月二日から臨時休業に入った。卒業式や学習指導の未履修部分対策など考えるいとまはなかった。

感染力が想像以上に高く、重篤化しやすいことなどは感染が広まってから感じたことだ。パンデミック、クラスター、三密など新たに知った言葉もあった。学校現場は、まさにクラスターの起こりうる三密状態が常態化

している場所である。三密を解消するために現場では涙ぐましい取組をしている。運動会や修学旅行の延期、県中総体や吹奏楽コンクール、高校野球大会の中止など、部活動において生徒たちが目標を掲げ努力を重ね培ってきた能力や技術を發揮する場所がなくなってしまった。力を出し切った敗北とは違う虚無感が残る。日本だけでなく、世界の至る所で、子供から大人までみんなが傷ついたり深い悲しみにうちひしがれたりしている状態である。

この状態を受け止めながら自分自身何が出来るかを考えた。少しだけ無理をして生きてみよう。何か出来ることがあるはずだから。



## 昔取った杵柄

鳳珠 濱高 秀治

(石川県退職校長会「会報」第94号)

我家は半農半漁を生業にしていた。そのために、小さい頃より海や田畑に関わる手伝いをしてた。海では小型定置網・刺し網で手伝いというより仕事を覚えて、共に働いた。魯や權の漕ぎ

方を小さい頃より覚えてたのだ。沖が荒れた時は落ちないように、バランスを保ち漕いだ。そのおかげで退職した今、漁師をして

いる。九十歳の母親が手伝ってくれる。昔取った杵柄、上手で生き生きし元気であ

る。これも親孝行の一つであろう。

また、この地域は、海岸線にすぐ山があり、平地が少なく田圃は山にあった。家から一時間ほど山を

登るのである。谷間に小さな田をあちこちに作っていた。谷から稲束を背に担いで山の上のはざ場まで運ぶのである。小学校

低学年は一束、高学年は二束、中学生は三束(一束は十二輪である)、足腰が鍛えられた。今になっては感謝である。

昨年は、母の指導で、妻と息子と初めて餅米を作った。正月餅は格別にうまかった。

今の私があるのは、この幼少期の家庭生活のおかげである。これからの私は、先祖の土地を大切にすること、母に孝行すること、家族が健康に過ごせることを肝に銘じ、日々を過ごしたい。



母親と畑について相談中



## 五反田だより

新型コロナウイルス感染防止の対策として緊急事態宣言がだされ経済活動の停止や人々の外出が禁止される異常事態が生じました。

全連退では前年度の活動を踏まえ、今年度の活動目標や活動計画を理事会、総会で決定し、各都道府県退職校長会の円滑な活動を展開していくための重要な時期でした。しかし、コロナ禍の影響により常任理事会、副会長会、理事会、総会が中止となり、十分な意見交換がなされず今年度の活動がスタートすることになり、心配でした。また、各地区の連絡協議会も中止となり、連合体としての課題検討や情報交換ができませんでした。各団体の活動が継続されていることに安堵しております。

文科省は学校教育に与えるコロナ禍の影響を防ぐため、3月

から全国の教育活動を春季休業まで休校することを指示しました。しかし、感染が収まらず休業が6月まで続き、卒業式・入学式が中止され、新たな活動ができませんでした。また再開された教育活動も三密を避けるため、きめ細かな教育活動が十分に実践できず困っております。全連退では、幼小中高・特別支援学校からの要望を受け、喫緊の課題を解決することを求め、文科大臣に要望書を提出しました。

各地区の退職校長会では、教育委員会や地域の学校からの要望を受け、多様な支援活動を活発に実践しています。これからも長年教育活動に携わってきた経験や知識を活かし、地域社会や学校教育の支援に貢献されまことを期待しております。子供たちの豊かな成長を支援できることは老後の生き方として喜びと生きがいになっていきます。

(T・A)

## ◇10月

- 2 部長会
- 7 生涯福祉部会
- 9 事業委員会
- 19 教育課題委員会
- 21 生涯福祉部会
- 22 教育振興部会
- 26 部長会

## ◇11月

- 6 部長会
- 12 教育課題委員会
- 13 事業委員会
- 24 広報部会
- 30 教育振興部会
- 広報部会

## ◇12月

- 7 広報部会
- 21 教育課題委員会
- 25 事業委員会

全連退会員  
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。  
送料を含めて、一個一、二〇〇円です。  
なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。  
(全連退事務局)

## 編集後記

○新しい年を迎えました。昨年はコロナ禍で全連退としても多くの行事が中止になりました。今年なるべく早い時期に収束することを願うばかりです。

○文部科学省大臣官房審議官の矢野和彦氏の講話の概要を掲載いたしました。新型コロナウイルス関連問題とGIGAスクール構想を中心とした話でした。とくにGIGAスクール構想の実現はこれからの学校教育を変えていくことになるようです。

○今回の会報は諸般の事情により12ページ建てとしました。

## 全連退会報 (218号)

発行 令和三年一月一日  
発行所 東京都品川区東五反田  
五二一三三三〇八

全国連合退職校長会

電話 〇三三三四四二八七六八

FAX 〇三三三四四二八七六八

Email: info@zenrentai.org

振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇

○責任者 入子 祐三

印刷 株式会社 信行社

電話 〇三三三三三三六二二